

夏でもサウナ

株式会社榎戸材木店
会長 榎戸正人

サウナブームが続いています。日本の住宅事情では自宅に設置するのは難しいですが、駅の近くなどにはサウナの店が必ずと言ってよいほどあるので、会社の帰りに一息ついて「整う」人も多いかと思えます。

街の銭湯はすたれがちですが、サウナを併設することで息を吹き返すところもあるようです。日本人はフィンランド人もビックリのサウナ好き。別荘地などではサウナ付きの方が売れると言うことで、庭にサウナを設置するところも増えています。

写真の円筒形のサウナも、軽井沢と箱根の別荘地に設置するもので、組み立て、設置をする業者が今まで使わせてもらっていた組み立て場所が使えなくなってしまったので、あちこち探して当社を見つけ出し、何とか場所を提供して欲しいと言うことで、裏の倉庫の一部をお貸ししたものです。

部品は中国製で、樹種はベイツガで熱処理をして耐久性を高めたもののようですが、中国ではこのように他国の木材を輸入して最終製品に加工して、付加価値を付けて輸出すると言うことが行われているようです。当社の木材加工部門はその中国の向こうを張って、多品種少量生産の木材加工で食べて行こうとしているので、強力なライバルではあります。でも、とても加工賃の安さではかなわない……

そんな中国も木材家具やプレカットなどの加工では最近、フィリピンやベトナムなど、より賃金が安い国に仕事を奪われつつあります。自動車やスマートフォンのような高度な技術と多額な投資が必要な製品と異なり、木材加工は工場や設備の投資額は少なくて済み、1000分の1ミリなどという高精度も要求されないため、賃金の安い国に取って代わられるのは時代の流れです。

サウナ風呂資材の生産で有力ではないかと思われる国はラオスだと思います。ラオスにはラオスヒノキという耐久性に優れた腐りにくい樹種があり、山奥に生えているので丸太のまま搬出することは難しいのですが、サウナに使用する木材は太い丸太は必要なく、製品も大断面は必要ないので、山で伐採し



た後、簡単な製材機で板状にカットして搬出すれば、安いコストで木材の入手が可能なのではないかと思われます。乾燥さえシッカリと行えば、コストの高い高温熱処理などは必要なく、中国で製造する半値以下でサウナの組み立てキットを輸入することが出来るでしょう。

将来、当社がラオスに進出する可能性(まず、無いと思いますが)を考え、個人的にラオスの貧しい子供たちへの教育援助を始めました。毎年10人の子供たちに中学卒業までの資金を支援しています。10年間で100人の子供たちが中学を卒業して社会に出れば、1～2人くらいは榎戸材木店に入社してくれるかも……そのために、ラオスに日本語学校を作る計画も検討しています。

当社がラオスに進出しなくても、卒業生を日本に呼び寄せて榎戸材木店で雇い入れ、木材加工に従事してもらうことはあり得ます。当社も新加工場が出来ると、おそらく仕事量は2倍以上になると思われますので、真面目で手先が器用だと言われているラオス人を雇うことはあり得ないことはありません。サウナを製作するかどうかはわかりませんが……

でも、おそらく中東やインド、東南アジア諸国でも、家にサウナが欲しいという富裕層は少なからずいると思われますので、メイド・イン・ジャパン、榎戸材木店製のサウナを輸出するくらいの夢は持ちたいものです。夢を語れない経営者は失格です。でも、語った夢を実現できない経営者は、もっとダメです。隠居した私も夢を見て語ることは続けていますが、実現するのは長男か孫になるでしょう。長生きしなくては！でも、50年、60年は生きられませんね……

